

吉田 和弘 岐阜大学学長インタビュー

名古屋大との国立大学機構で研究が高度化、地域貢献も加速 岐阜大の強み生かし、県内全自治体との協定で課題解決へ



岐阜大学の吉田和弘学長がこのほど6年任期の折り返し点を迎えた。岐阜大学が名古屋大学と日本初の法人統合をした東海国立大学機構は5年目を迎えた。岐阜大学は強みを生かし、機構を通して教育研究の相乗効果を実現してきた。機構の副機構長も務める吉田学長に岐阜大学の現在地と機構の成果、将来展望などを聞いた。

吉田 和弘（よしだ・かずひろ）1958年4月8日、広島市生まれ。84年3月広島大学医学部卒業、90年3月広島大学大学院外科学系専攻修了。専門は消化器外科学、腫瘍外科学。医学博士。94年英国オックスフォード大学病院留学、2002年広島大学病院講師、07年岐阜大学医学部腫瘍外科学教授、18年岐阜大学附属病院長・岐阜大学副学長、22年4月東海国立大学機構大学総括理事・副機構長、岐阜大学長に就任。座右の銘は「和を以て貴（とおと）しとなす」（聖徳太子）。趣味は釣り。

— これまでの主な取り組みをお話してください。

吉田 和弘学長（以下、吉田学長） 本学の現在を考えると、背景としてはやはり東海国立大学機構での名古屋大学との法人統合が大きいですね。2020年4月、新たな国立大学モデルを視野に入れて統合しました。

— 統合の意義は。

吉田学長 「Make New Standards for the Public」というミッションを名大と共有し、機構が中心になって産業界、学術界、自治体と一緒に地域を活性化し、世界へも発信しています。基礎ができ、（成果を）刈り取りつつあります。

— 貴学のビジョンとは。

吉田学長 本学は理念「学び、究め、貢献する」のもとにビジョンを地域共創、特色ある研究、イノベーション、教育を戦略的に推進して地域と人類の課題解決に貢献する「地域活性化の中核拠点」になると決めました。本学の価値創造のモデルを「ぎふのミ・ラ・イ・エ構想」と名付けました。ビジョン実現の戦略を策定し、本学の強みは、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりの4分野で、ステークホルダーと共創し、地域を変えていく好循環をつ

くります。ちなみに構想の「ミ」は Migration、「ラ」は Laboratory、「イ」は Innovation、「エ」は Education の頭文字です。

— 進捗状況は。

吉田学長 特色のある大学など総合振興パッケージとして各省が出す補助金を8つ獲得し、ビジョン実現のベースができたと思います。大目標の1つは「知と人材の集積拠点」で、私たちの強みが生きる分野としてライフサイエンス、ものづくり、環境・エネルギーを挙げています。戦略の軸は4つで、教育・人材育成、研究・価値創造、社会連携・産学連携、それと国際展開で、着実に進めています。

— 刈り取り中の機構の成果は。

吉田学長 機構は現在6つの事業を連携拠点支援事業として認定しています。研究では糖鎖分野の世界トップレベルの拠点が特筆に値しますね。糖鎖はゲノム、タンパク質と並ぶ第3の生命維持に不可欠な鎖状の物質で、細胞間のコミュニケーションや免疫反応に関係。本学の50年以上の基礎研究の実績を生かした取り組みで、脚光を浴びています。国の大型プロジェクトとして2023年には糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟が竣工しまし